

「2020年の投信運用、半分近くが損益マイナス」と言われる中、積立投資の有効性を検証!~2020年一括投資では-10%超のREITも積立投信ではプラスのリターンに!!~

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

窪田 真美

「2020年の投信運用、半分近くが損益マイナス」と言われる中、より長期の積立投資では、昨年-10%超だった資産もプラスに。

2021年1月25日付日本経済新聞電子版に「『長期・積立・分散』2021年こそ真価が問われる」という見出しの記事が出ていた(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。以下に一部を引用する。

「様々な投資対象、様々な運用方針で運用される投資信託を分析すると(20年11月末データ)、46%は昨年初からマイナスの運用成績だったそうです。日経平均株価は大きく上昇しているのになぜ、マイナス運用の投資信託があるかといえば、『日本株式』『外国株式』が大幅に上昇した一方で、『国内外のREIT(不動産投信)』などは下落したからです。個別のアセットクラス(投資対象)へ運用したファンドはそうしたあおりをもろに受けます(うまくいくときは大幅上昇の可能性もありますが)。複数のアセットクラスへ投資するバランス型ファンドを活用すると、大きくマイナスになるリスクを和らげることができます。さらに積み立て投資を行うと(特に20年のマーケットのような値動きでは)効率的な運用結果を導き出します。難しいマーケット環境下において、個人投資家は『長期・積立・分散投資』を無理なく続けることがベターだと思います。」——(下線は投信調査コラム筆者)。

上記記事は20年11月末データに基づき、「日経平均株価は大きく上昇しているのになぜ、マイナス運用の投資信託があるかといえば、『日本株式』『外国株式』が大幅に上昇した一方で、『国内外のREIT(不動産投信)』などは下落したからです。」としている。

下記テーブルは20年12月末データであり、国内外の株式が上昇している一方、国内外のREITは下落している事がわかる。

日本の投資信託に使われることの多いベンチマークの円換算パフォーマンス(単位:%)

~1年パフォーマンスの高い順~ *年率換算せず

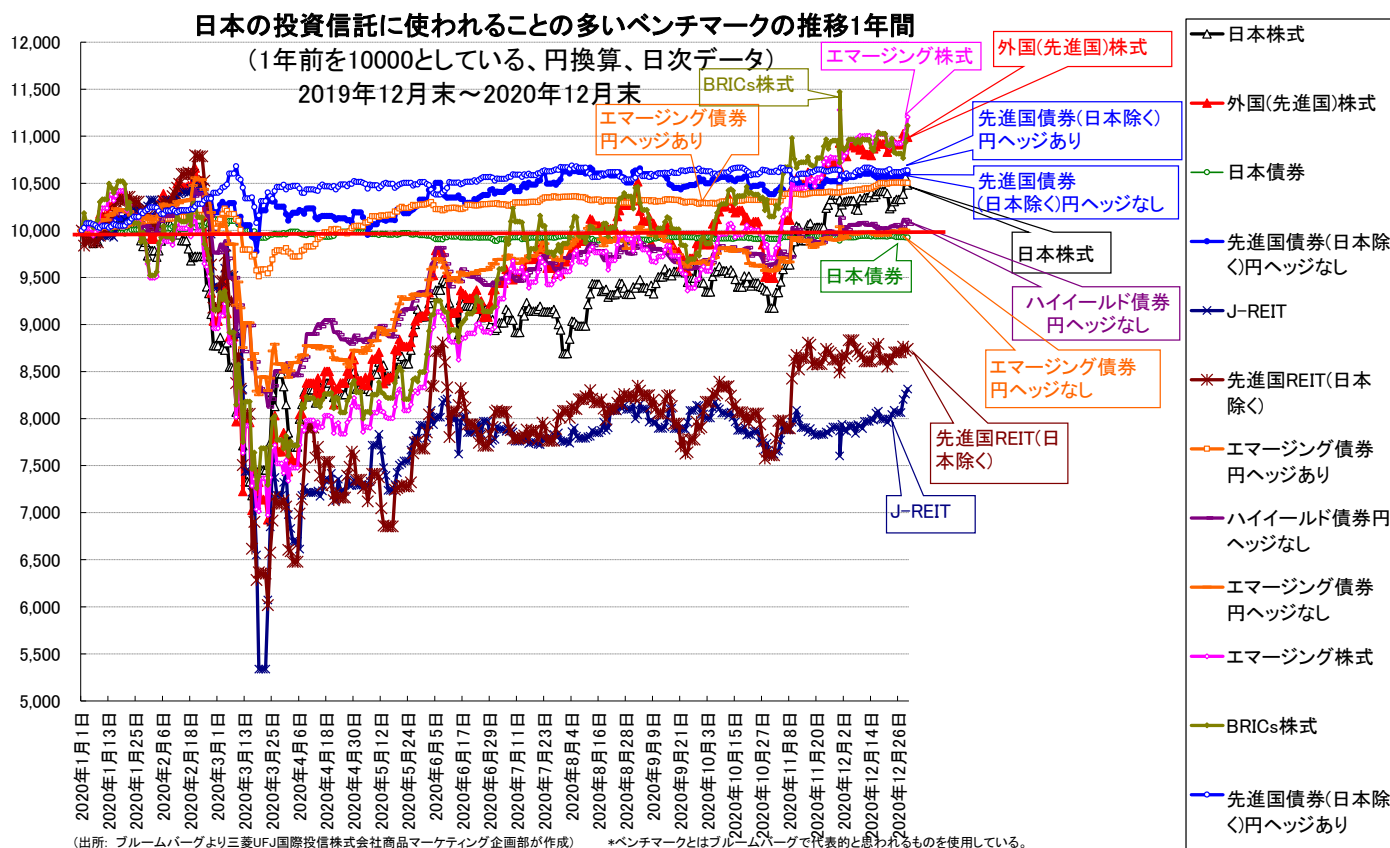
2020年12月31日

指数名	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年
1 エマージング株式	+6	+17	+25	+12	+10	+57
2 BRICs株式	+4	+13	+22	+12	+15	+71
3 外国(先進国)株式	+3	+11	+18	+10	+25	+55
4 外国(先進国)債券円ヘッジあり	+0	+0	+1	+6	+12	+14
5 外国(先進国)債券円ヘッジなし	+0	+1	+1	+6	+7	+8
6 エマージング債券円ヘッジあり	+1	+2	+2	+5	+10	+17
7 国内株式	+3	+11	+16	+5	-1	+17
8 ハイイールド債券円ヘッジなし	+1	+4	+7	+1	+9	+29
9 エマージング債券円ヘッジなし	+1	+4	+4	+0	+6	+21
10 国内債券	+0	-0	+0	-1	+2	+5
11 先進国REIT(日本除く)	+3	+11	+11	-12	-1	+8
12 国内不動産/REIT	+6	+3	+7	-17	+7	+2

国内外の株式は上昇。

国内外のREITは下落。

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。



冒頭記事は、投信への一括投資の結果を様々な投資対象ごとに2020年11月末まで年初来で見たものであり、「さらに積み立て投資を行うと(特に20年のマーケットのような値動きでは)効率的な運用結果を導き出します。」とある。

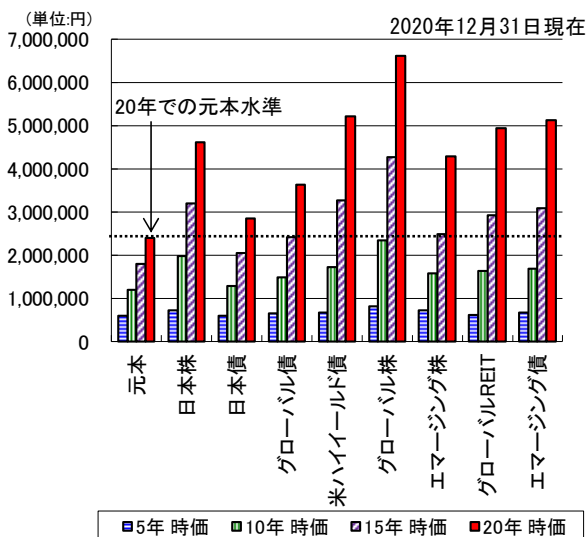
では実際に、投信で積立を行った場合の結果はどうなるだろうか？ 一括投資では年初来マイナスだったREITやエマーシング株に積立投資した場合や、一括投資で好ましい結果となった日本株やグローバル株についても、積立の投資期間を変えてみたらどうなるか？ 以下でそれを見る。

NISAで使われる事が多い投信ベンチマークについて、投資期間・積立開始時期・積立終了(出口)時期を変え、多種多様な検証をする(2013年2月8日付日本版ISAの道 その2から継続中～URLは後述[参考ホームページ]②参照)。つみたてNISAはもちろん一般NISA等の投資家も積立投資が出来る。一般NISA等で積立投資を行う場合、商品が限定されておらず、(つみたてNISAに比べ)自由度の高い投資が可能である為、こうした検証は特に参考になると思われる。

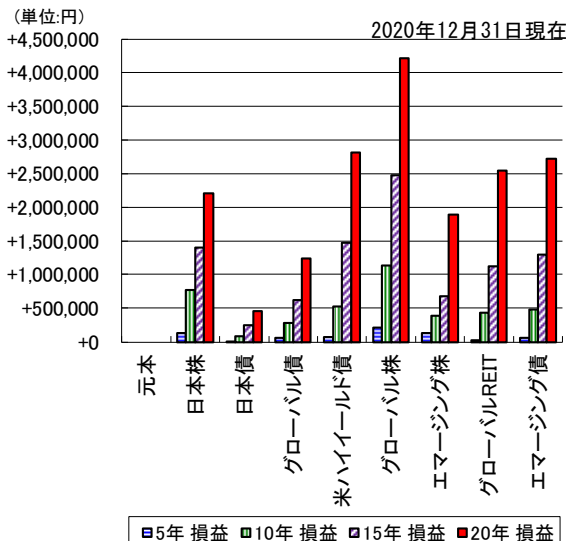
毎月1万円ずつ積立投資をしていたら、今いくらになっているのか、まず2020年12月末までの投資期間5年、10年、15年、20年の元本とリターン(損益)が次頁のグラフである。グラフの左が時価、右が損益である(*手数料等は考慮せず)。

投資期間 5年・10年・15年・20年

2020年12月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **時価** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



2020年12月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **損益** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)
*ベンチマークとはプルームバーグで代表的と思われるものを、当コラムで2013年2月8日付日本版ISAの道その2から継続して使用している(以下同じ)。

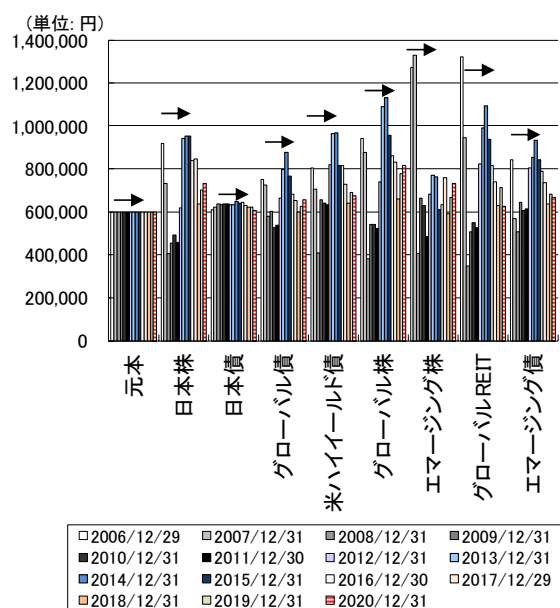
(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)
*ベンチマークとはプルームバーグで代表的と思われるものを、当コラムで2013年2月8日付日本版ISAの道その2から継続して使用している(以下同じ)。

5年、10年、15年、20年はいずれの資産もプラスのリターンとなり、グローバル株(日本を除く先進国)のリターンが最も良かった。 2020年の一括投資で-10%超だったグローバル REIT もいずれの投資期間においてもプラスのリターンとなった。5年、10年、15年では日本株や利益はグローバル REIT より大きかったが、20年ではグローバル REIT が日本株を上回った。

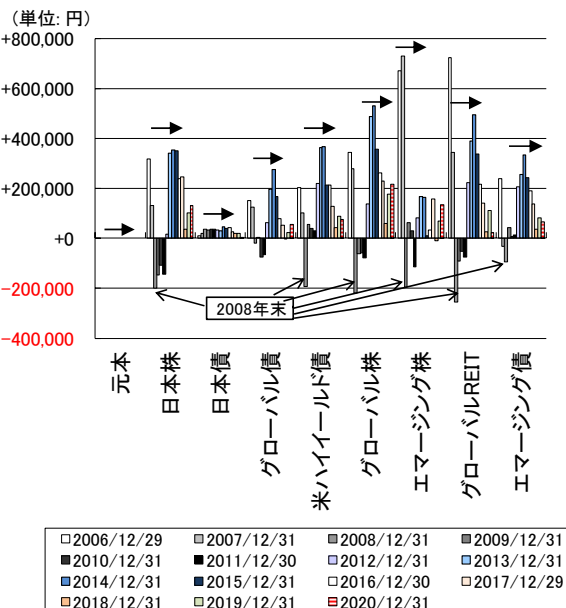
積立投資は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるが、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(*積立期間中に市場価額が上がり平均投資単価が高くなる場合もある)。そこで積立の終了時を2006年~2020年の各年末として検証する。まずは投資期間5年である。

投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **時価**
*左から2006年~2020年の各年末。



毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **損益**
*左から2006年~2020年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

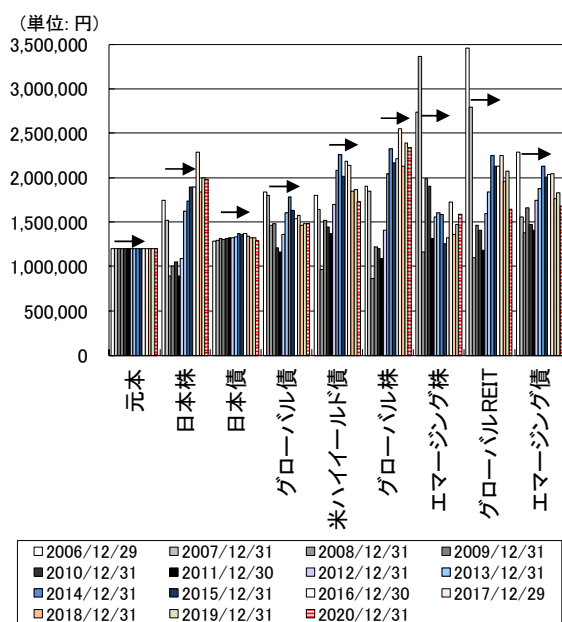
(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

冒頭記事の言っていた一括投資で2020年に-10%超だったグローバルREITや、反対にプラスだったグローバル株・日本株は、2020年末までの積立5年ではプラスとなる一方、リーマン・ショック(2008年9月)後2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が拡大している。

5年の積立では期間によっては損失となる事がある。より長期ではどうか。次いで**投資期間10年である。下記グラフの通り、投資期間5年に比べ総じて黒字化している。**グローバルREITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング株は5年で2008年末・2011年末・2018年末いずれも損失だったが、10年では2008年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、投資期間5年より損失年が増えている。

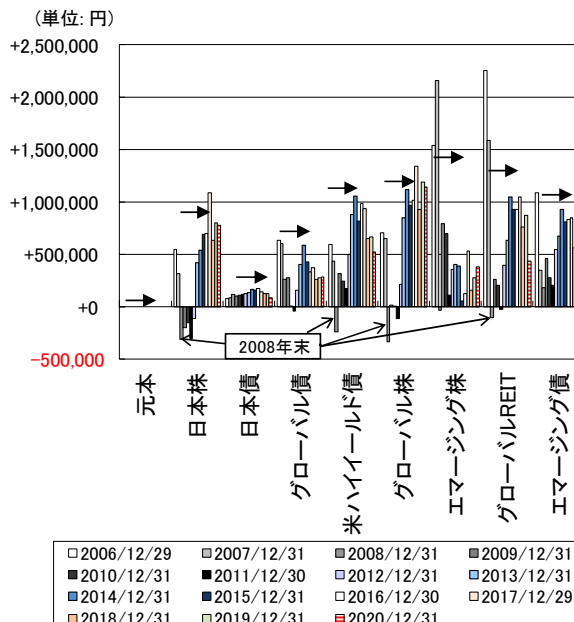
投資期間10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の **時価**
*左から2006年～2020年の各年末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の **損益**
*左から2006年～2020年の各年末。



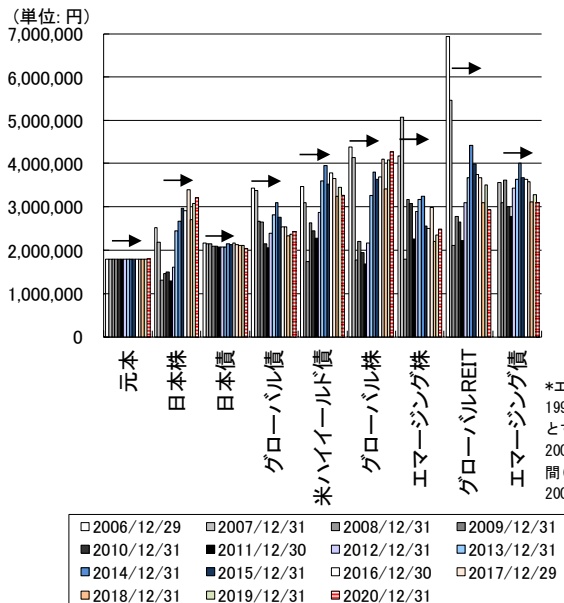
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

そして**投資期間15年と20年で、黒字化がより鮮明となる。次頁グラフがそれで、大半がいずれの時点でも利益、もしくは、見えなくらいの損失にとどまる。2012年末までマイナスだった日本株は2013年に黒字化する。リーマン・ショックの様な相場暴落時でも、長期になればなるほど積立投資では良好な結果になっている。**

「個人投資家はむしろ『ここから下がっても慌てないこと』を意識すべきでしょう。…(略)…もしそうなったとしても損切りして損失確定させる必要はありません。むしろ『しばらくのあいだは積み立て投資のチャンスが続くな』と考えて投資を継続すればいいのです。そこからまた回復をすることもあり得るからです。」(2021年1月25日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]①参照)の通りである。

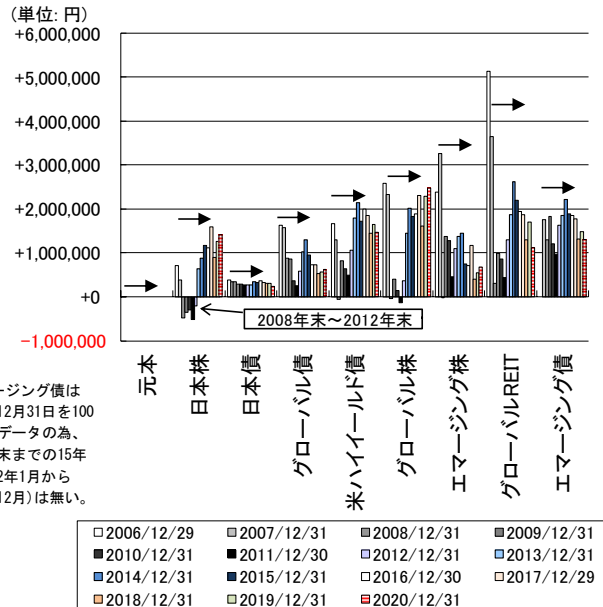
投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価
*左から2006年～2020年の各年末。



(出所: プルームバークより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

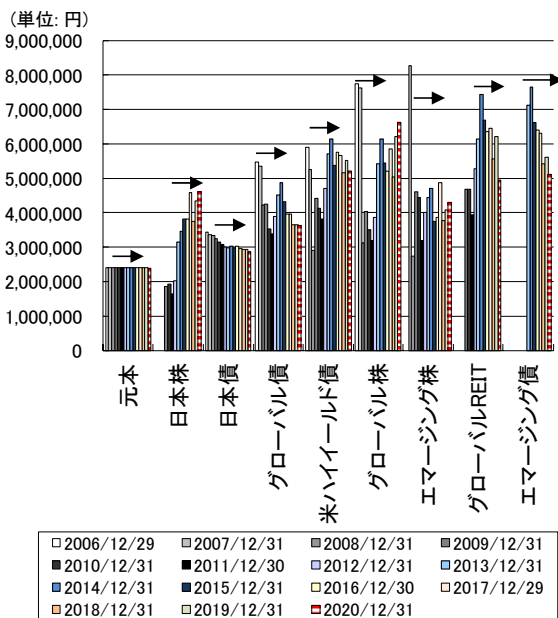
毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益
*左から2006年～2020年の各年末。



(出所: プルームバークより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

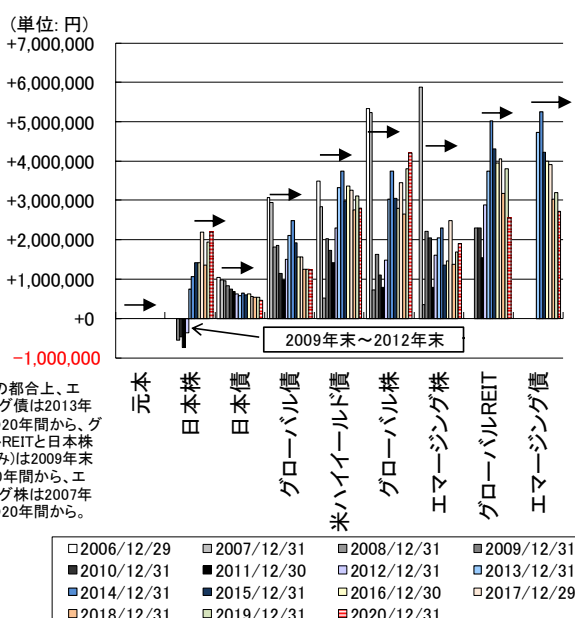
投資期間 20年

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 時価
*左から2006年～2020年の各年末。



(出所: プルームバークより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 損益
*左から2006年～2020年の各年末。



(出所: プルームバークより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

以上のリターン/リスクの大小や安定さを良く見た上で投資家が自身のリスク選好度や好み等に応じ投資する事が期待される。市場の値動きに動揺する事なく、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、つみたてNISA、iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金、そして一般NISA、ジュニアNISA、職場つみたてNISAといった節税出来る金融商品を使い、多様な選択肢から長期・分散の積立投資をして資産形成の一助にしてほしい。

以上

[参考ホームページ]

①2021年1月25日付日本経済新聞電子版『長期・積立・分散』2021年こそ真価が問われる2021年に注目する4つの数字(4)』…「<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOMH208LC0Q1A120C2000000>」(2020年12月29日付日本経済新聞電子版「2020年の投信運用、半分近くが損益マイナス」…「https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGD00011_T21C20A2000000」)。

②2013年2月8日付日本版ISAの道 その2「ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバルREIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目(DC/確定拠出年金にも活用可能)」。…「<https://www.am.mufg.jp/text/130208.pdf>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…

「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」、

「<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」

～Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・「日経平均株価」に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
- ・ブルームバーグ(BLOOMBERG)は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー(Bloomberg Finance L.P.)の商標およびサービスマークです。バークレイズ(BARCLAYS)は、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシー(Barclays Bank Plc)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス(BLOOMBERG BARCLAYS INDICES)に対する一切の独占的権利を有しています。